

「2500号・55周年記念
詩誌『沙漠』展
——ここにありここに立つ
そして歩む——
6月14日(土)～7月13日(日)」

詩誌「沙漠」は昭和二十七年に小倉で創刊し、以来北九州で発行を続けてきました。今年、二五〇号発行、五十五周年を迎えるのを記念し、そのあゆみをたどる展覧会を開催しました。創刊号から二五〇号までの「沙漠」や、同人の詩集、原稿、展覧会のテーマに合わせて制作されたオブジェなどを展示しました。



詩誌「沙漠」主催
文学講座
6月15日(日)・6月29日(日)
7月12日(土)

会期中に、九州で活躍する詩人を招き、三回の文学講座が開かれました。

◎宮本一宏氏
「九州「昭和中期」詩精神を探る」



◎渡辺玄英氏
「〇年代現代詩の今」



◎岡田哲也氏

「詩のたのしさ 詩のかなしさ」



▲交流ステージ & ワークショップ

小倉五行歌会
五周年記念作品展
6月21日(土)～6月27日(金)

小倉五行歌会主催による「小倉五行歌五周年記念作品展」が開催され、約七〇点が展示されました。五行歌は、五行で書くというほかには、制約がなく自由な詩型の詩歌です。「ごめんなさい」が、言えなくて、影法師に、心を入れて、寄り添って歩いた」「わき見して、寄り道して、それぞれ歩いて、いつの間にか、同じ歩幅」など、新しい感性で描かれた作品世界は、とてもみずみずしく、来館者の関心を集めていました。

展示資料＝七〇点



小倉五行歌会のみなさん

子ども文化ふれあいフェスタ
「落語っ子 落語であそぼう」
8月30日(土)

山椒家小粒さんら「噺の会じゅげむ 小倉出張所」の皆さんをお招きして、落語体験講座を開催しました。

まずは「落語ってなに？」の落語入門講座からはじまり、「平林」の実演を鑑賞。落語ははじめてという子どももすっかり聞き入って、笑いの輪が広がりました。

手拭いや扇子といった小道具の使い方も練習。参加者は、自分で考えた芸名で高座に上がり、覚えたばかりの小噺を披露しました。

参加者＝二五人



山椒家小粒さん(右)



九州市民大学のみなさんによる見学会
平成20年6月12日



福岡県高等学校芸術・文化連盟文芸専門部の合評会
平成20年7月20日



保育士さんの研修で館長が講演
平成20年7月23日